

# 子ども家庭支援事業について

あせらず ゆっくり みんなで きっと ずっと つながる



学校福祉部 子ども支援課【あゆみ】 家庭支援課【きずな】

## 1 子ども家庭支援事業の状況

### (1) 支援対象児童生徒数(人)

実施した支援	R4(年間)			R5(年間)		
	学校 依頼	保護者 依頼	計	学校 依頼	保護者 依頼	計
はじめの一步(児童生徒への対応)	45	18	61※	64	24	84※
ささえて一步(家庭問題への対応)	15	4	17※	38	7	41※
いっしょに一步(学校生活への対応)	3	9	12	13	14	24
計	46※	21※	65※	72※	27※	94※

(注1)「※」…重複する場合があるため、計とは一致しない。下の(3)の表も同様。

### (2) 家庭訪問等の実績(回)

実施した支援	R4(年間)		R5(年間)	
学校や関連機関と行ったケース会議等の回数	132		625	
家庭訪問で直接支援した回数	364	703	217	650
公民館や学校等で直接支援した回数	339		433	
保護者と面談した回数	235		505	

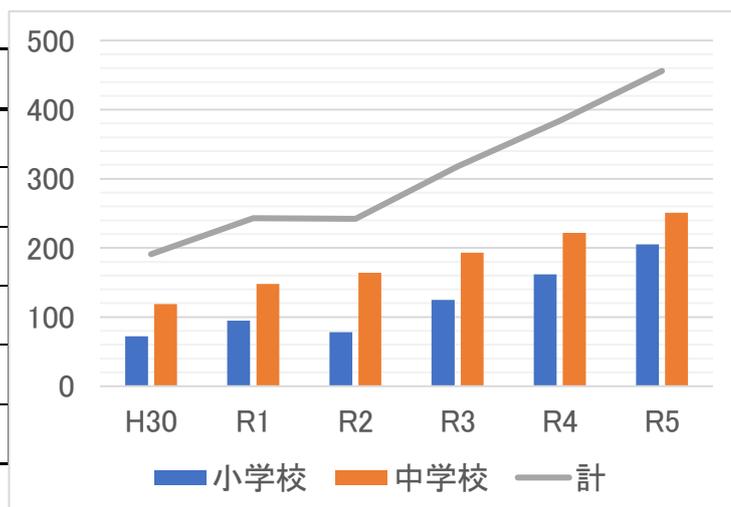
### (3) 改善等が図られた児童生徒の状況(人)

児童生徒の状況		R4 (年間)		R5 (年間)	
登校できた	相談室等に登校		12		15
	相談室等に定期的に登校	40	13	76	11
	教室に登校	※	8	※	31
	教室に定期的に登校		12		27
チャレンジ教室やフリースクールとつながった	チャレンジ教室等に通所	20	6	15	4
	チャレンジ教室等に定期的に通所		14		11
生活の改善(安定)が見られた	精神的に安定や向上	30	23	24	15
	生活習慣が改善	※	5	※	4
	親子関係等の家庭環境が改善		13		10
新たに医療とつながったり、検査が行えたりした			5		16
新たに関係機関とつながった			4		6

## 2 焼津市の不登校の現状

### (1)焼津市不登校児童生徒数推移

	小学校	中学校	計
H30	72	119	191
R1	95	148	243
R2	78	164	242
R3	125	193	318
R4	162	222	384
R5	205	251	456



### (2)本年度の目標

市内のすべての不登校児童生徒が、学級担任などの教員だけでなく、SC・SSW・学校福祉部・医療機関など、いずれかの関係機関や専門家の支援を受ける。つまり、どこからも支援を受けていない不登校の児童生徒ゼロを目指して、学校と学校福祉部が連携して取り組む。

※ 不登校の定義：年間30日以上欠席で不登校としてカウントする。

### (3)具体的な焼津市の取組

○ 以下のように、それぞれの不登校児童生徒の状況に応じて、適切な支援を行っていく。

#### ◆ 通常の教室で過ごす、時々欠席する児童生徒への支援(月3～4日で年間30日以上)

- ・ 担任や支援員が寄り添って、教室で支援を行う
- ・ 悩みなどがある場合は、担任だけでなく他の教員や心の教室相談員、SC、SSWが話を聞いて対応
- ・ 学校福祉部による支援

#### ◆ 学校に登校できるが、教室に入りにくい児童生徒への支援

- ・ 心の教室(校内教育支援センター)で支援を行う
- ・ 心の教室相談員は、1日4時間の勤務 研究指定校は1日6時間の勤務
- ・ 担任や他の教員、SC、SSWなどによる支援
- ・ 学校福祉部による支援

#### ◆ 学校に登校することが難しい児童生徒への支援

- ・ チャレンジ教室(教育支援センター)への通級を勧め、支援を行う
- ・ アトレ庁舎に焼津チャレンジ・大井川庁舎に大井川チャレンジがある
- ・ どちらのチャレンジにも3名ずつの指導員を配置
- ・ 市内3か所目の新たなチャレンジ教室を新規開設の予定
- ・ 児童生徒が、自ら取り組みたい体験活動等の実現を目指す
- ・ 学校、学校福祉部、SC、SSWなどによる支援

#### ◆ 学校に登校せず、家から出ることが少ない児童生徒への支援

- ・ 学校福祉部、学校による支援
- ・ 経済的な問題などで福祉的支援を求めている家庭への支援
- ・ 学校・チャレンジ教室・関係機関や専門家につながるよう支援

#### (4) チャレンジ教室の現状

##### ○チャレンジ教室通級人数

	焼津チャレンジ		大井川チャレンジ		合計
	小学生	中学生	小学生	中学生	
R2	8	20	9	17	54
R3	12	21	11	16	60
R4	9	36	10	11	66
R5	11	26	8	19	64

##### チャレンジ教室に通級している割合

	不登校児童生徒数	通級人数	通級している割合
R2	242	54	22.3%
R3	318	60	18.9%
R4	384	66	17.2%
R5	456	64	14.0%

○ 焼津・大井川チャレンジ受入可能人数……各24人

○ それぞれのチャレンジに登録している児童生徒が常に全員教室にいるわけではなく、短時間だけの通級であったり、決められた曜日だけの通級であったりするため、現在は受入可能な状況である。しかし、不登校児童生徒の増加に伴い、今後受入が難しくなることが考えられる。

### 3 成果と課題

#### (1) 成果(まとめ)

令和5年度は、学校福祉部を新設したことで対応力が大きく向上した。令和4年度からの対応に加え、新たに29人の支援を行い、合計94人の児童生徒とその家庭を対象に、多様な困り感に寄り添い、問題の解消に取り組んだ。この結果、関係機関と連携したケース会議や保護者との面談回数が大幅に増え、登校できた児童生徒が76人(R5:40人)、新たに医療や関係機関とつながった児童生徒が22人(R5:9人)など、改善が図られた児童生徒が昨年度を大幅に上回った。令和6年度は、家庭児童相談員を1名拡充し、より充実した支援を目指していく。

また、医療的ケアを必要とする児童生徒について、令和5年度は3校3人に対し看護師2人の体制であったが、令和6年度は4校5人に対し看護師4人の体制に拡充した。

#### (2) 課題

平成30年度に191人だった不登校児童生徒は、令和5年度には456人と大幅な増加傾向が続いている。学校を中心に、学校福祉部や関係機関が連携して対応をしているが、状況が一時的に改善しても、継続的な支援がないと安定しないケースが少なくない。そのため、新規のケースへの対応も含め、増加する不登校に対して、対応しきれていない現状がある。

そこで、不登校児童生徒の増加を防ぐために、昨年度から研究指定校を設けて、不登校に対する予防的 hand 立ての研究を進めている。その一方で、現在、困難を抱えている児童生徒や家庭に対して、より充実した支援をしていくために、学校福祉部の更なる体制の強化が求められる。

また、不登校児童生徒の社会性を育む学びの場であるチャレンジ教室(教育支援センター)への通級人数が概ね令和3年度より60人余りで推移しており、通級している割合は不登校児童生徒の増加を受け低下している。

これまで、焼津・大井川チャレンジでは、主に座学での学習を中心に行われてきたが、昨年度途中から、体験活動を取り入れるよう努めてきている。しかし、増え続ける不登校児童生徒に対応するため、更に体験活動を充実させ、通級しやすい居場所の創設が課題となっている。そこで、旧東益津幼稚園の園舎、園庭の他、東益津地区の高草山をはじめとする豊かな自然環境や地域の力をお借りし、体験を主体とした学習を取り入れることで、児童生徒が自ら考え、判断し、行動する学びの場を創設することとした。

今後は、3つのチャレンジ教室が情報交換し、取組を共有していくことで、不登校児童生徒がワクワク感をもって通い、社会的自立を図ることができるようにしていきたい。